

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 1No. 2; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009273

1976・6 1_卷2_号

国立民族学博物館 研究報告



論文

トルコの村の食事体系———松原正毅

中央アンデス・ワヌコ地域の石器文化———藤井龍彦

間宮林蔵の見たギリヤク族(1)———加藤九祚

Mbum Circumcision Songs———EGUCHI, Paul Kazuhisa



資料・研究ノート

Apuntes sobre la Historia de los Mixes de

la Zona Alta, Oaxaca, México———KURODA, Etsuko

Kumupa の塩——イリアン・ジャヤ中央高地の物質文化(1)———石毛直道

視覚的思考をめぐる覚え書——構造主義の交換論的視点から———泉 幽香



国立民族学博物館

大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 〒565 TEL.06-877-5341

国立民族学博物館研究報告

1 卷 2 号

1976年6月

目 次

論 文

- トルコの村の食事体系……………松原正毅………… 219
中央アンデス・ワヌコ地域の石器文化……………藤井龍彦………… 272
間宮林蔵の見たギリヤク族 (1)……………加藤九祚………… 305
Mbum Circumcision Songs……………EGUCHI, Paul Kazuhisa………… 334

資料・研究ノート

- Apuntes sobre la Historia de los Mixes de la Zona
Alta, Oaxaca, México ……………KURODA, Etsuko………… 344
Kumupa の塩
—イリアン・ジャヤ中央高地の物質文化 (1)— ……………石毛直道………… 357
視覚的思考をめぐる覚え書
—構造主義の交換論的視点から— ……………泉 幽 香………… 374

調査研究活動報告

- トーレス海峡諸島調査記……………杉本尚次………… 386
オセアニア民族資料収集調査記……………石森秀三………… 400
中南米研究調査の旅から……………藤井龍彦………… 424
ゾロアスター教徒の衣裳
—西アジア収集の回想— ……………藤井知昭………… 427
インドネシア民族資料調査収集旅行ノートから……………吉田集而………… 431
タイ稲作社会の調査より
—タマサート大学— ……………田邊繁治………… 444

彙 報…………… 452

- 国立民族学博物館研究報告寄稿要項…………… 454
国立民族学博物館研究報告執筆要領…………… 455

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 1 No. 2

June 1976

MATSUBARA, Masatake	Daily Diet and Dietary System in a Turkish Village	219
FUJII, Tatsuhiko	Lithic Culture in the Huánuco Region, Central Andes.....	272
KATO, Kyuzo	The Gilyak Observed by Rinzo Mamiya(1)	305
EGUCHI, Paul Kazuhisa	Mbum Circumcision Songs.....	334
KURODA, Etsuko	Notes on the Historical Background of Highland Mixe in Oaxaca, Mexico	344
ISHIGE, Naomichi	Salt Making at Kumupa, Central Highland, Irian Jaya.....	357
IZUMI, Yuka	Preliminary Notes on Visual Thinking — from the perspective of exchange theory in structuralism—	374
SUGIMOTO, Hisatsugu	Expedition to Torres Strait.....	386
ISHIMORI, Shuzo	Report on the Collection of Ethnological Items in Oceania	400
FUJII, Tatsuhiko	Field Trip to South America	424
FUJII, Tomoaki	Zoroastrian Costumes	427
YOSHIDA, Shuji	Collecting Indonesian Artifacts	431
TANABE, Shigeharu	Brief Report on Thammasat University in Thailand	444

彙 報 (昭和51年1月～
昭和51年4月)

人事異動

昭和51年

- 2月1日 長尾 真(京都大学工学部教授)を第5研究部に併任
関本照夫を助手(第5研究部)に採用
- 3月1日 合田晃一を事務官(情報管理施設資料室)に採用
- 4月1日 三浦猛夫(文部省大臣官房調査統計課国内第1調査係長)は、情報管理施設技術室長に昇任
中村郁男(大阪大学医学部附属病院管理課用度掛備品主任)は、管理部企画課製作係長に昇任
山下 進(大阪大学附属図書館吹田分館運用掛閲覧主任)は、情報管理施設資料室文献図書係長に昇任
中島聖勝(大阪大学大型計算機センター業務掛業務管理主任)は、情報管理施設技術室電子計算機係長に昇任
地中 剛を技官(管理部施設課)に採用
大塚和義を助教授(第1研究部)に採用
杉村 棟を助教授(第2研究部)に採用
宮本 勝を助手(第5研究部)に採用
今井義雄(情報管理施設資料室文献図書係長)は、大阪大学附属図書館中之島分館目録掛長に転任
- 4月16日 竹村卓二助教授(第1研究部)は、教授に昇任
中村俊亀智助教授(第4研究部)は、教授に昇任
江口一久助手(第3研究部)は、助教授に昇任

館内各種委員会の編成がえ

昭和51年4月1日付で、下記のとおり館内各種委員会の編成を行った(○印は委員長を示す)。

映像・音響委員会

○竹村卓二, 祖父江孝男, 君島久子, 和田祐一, 和田正平, 黒田悦子, 石森秀三, 櫻井哲男
研究部運営委員会

○祖父江孝男, 杉本尚次, 端 信行, 和田正平, 中山和芳, 大胡 修, 須藤健一, 泉 幽香, 宮本 勝

建築委員会

○佐々木高明

国際化委員会

○伊藤幹治

広報委員会

○君島久子, 端 信行, 田邊繁治, 須藤健一, 藤井龍彦

収集委員会

○佐々木高明

出版・編集委員会

○伊藤幹治, 杉本尚次, 松原正毅, 江口一久, 石森秀三, 関本照夫, 宮本 勝

情報システム委員会

○中村俊亀智, 佐々木高明, 和田祐一, 大給近達, 松澤員子, 大胡 修, 吉田集而

制度委員会

○祖父江孝男, 佐々木高明, 伊藤幹治, 端 信行, 藤井龍彦

大学院委員会

○杉本尚次, 竹村卓二, 伊藤幹治, 中山和芳
展示委員会

○大給近達, 大塚和義, 藤井知昭, 杉村 棟, 石毛直道, 藤井龍彦, 関本照夫

図書委員会

○和田祐一, 杉村 棟, 江口一久, 黒田悦子, 田邊繁治, 泉 幽香

標本整理委員会

○佐々木高明, 中村俊亀智, 大塚和義, 松原正毅, 藤井知昭, 石毛直道, 吉田集而, 櫻井哲男

彙 報

H R A F 委員会

○祖父江孝男, 松澤員子

共同研究会

昭和51年

- 1月13日 「映画試写会(グループ現代)」
 1月27日 大阪大学蛋白質研究所コンピューター見学
 2月3日 「内と外からみた東北農村の変化」 泉 幽香
 2月10日 「映画試写会(岩波映画)」
 2月17日 「中国の民間伝承について」 君島久子
 2月24日 「民族学博物館と写真」 芳賀日出男(写真家)
 3月2日 「ジャワの米作農村について」 関本 照夫
 3月9日 「蘇鉄みそ作りの観察記録——用具とそれに関わる人びと——」 松澤員子

「曲屋, 合掌造り, 大和棟, 二棟造り民家の比較研究」

中村俊亀智

3月16日 「南島農耕具の類型について」

佐々木高明

「消費行動の分析」石毛直道

4月6日 「沖縄のまつりと祭場」

伊藤幹治

4月13日 「北九州民家調査短報」「オーストラリアの野外博物館」

杉本尚次

「沖縄・島根調査報告——通過儀礼にみるヘヤの移動について——」 大胡 修

4月27日 「<もの>からみたアイヌ文化の枠組について」 大塚和義

「北米の大学院における博物館学コースの一例」 杉村 棟

「ハヌヌー・マンギャン族の社会観・世界観」 宮本 勝

海外における研究・調査・収集活動

氏名	所属・官職	出発	帰国	行先
櫻井 哲男	(第5研究部助手)	51. 1. 9	51. 2. 29	大韓民国, 台湾
端 信行	(第3研究部助教授)	51. 2. 24	51. 3. 25	フランス, セネガル, 象牙海岸
加藤 九祚	(第1研究部教授)	51. 3. 23	52. 1. 22	ソビエト連邦共和国
祖父江孝男	(第1研究部教授)	51. 4. 12	51. 4. 22	アメリカ合衆国

来館者記録抄

昭和51年

1月13日	Richard PEARSON	ブリテッシュ・コロンビア大学教授	3月25日	Amir SUTAARGA	インドネシア教育文化省博物館部長
2月17日	原 忠彦	東京外国語大学助教授	3月26日	畑中 幸子	金沢大学助教授
2月24日	芳賀日出男	民族写真家	4月2日	S. BUDHISANTOSO	インドネシア大学助教授
2月25日	川村 俊蔵	京都大学教授	4月8日	樋口 敬二	名古屋大学教授
3月2日	本田 実信	京都大学教授	4月12日	Caroline Atsuko YANG	在日合衆国教育委員会事務局局長
3月16日	坂井 利之	京都大学教授		佐久間悦治郎	在日合衆国教育委員会事務局総務部長
	杉田 繁治	京都大学助教授		安嶋 彌	文化庁長官
3月23日	寺田 和夫	東京大学教授	4月17日		
	加藤 泰建	東京大学助手			

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織運営に関与するもの
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文を1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原称表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、編集委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市山田小川123の17（日本万国博覧会記念公園）

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-877-5341）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田, 1942: pp. 67-69]
[LEACH, 1961: p. 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田, 1942a: pp. 20-22] [柳田, 1942b: p. 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題(タイトル)、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の論題は引用符でかこみ、雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合

Bohannan, P., 1973, "Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist",
Current Anthropology, Vol. 14-4, The University of Chicago Press. pp. 1-10

石田英一郎, 1948, 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13巻4号 岡書店。

単行本の場合

Berlin, B. & P. Kay, 1969, Basic Color Terms: Their Universality and Evolution,
University of California Press.

柳田国男, 1942, 『日本の祭』弘文堂書房。

国立民族学博物館研究報告 1 卷 2 号

編集委員

石 森 秀 三	関 本 照 夫
伊 藤 幹 治 (編集委員長)	松 原 正 毅
江 口 一 久	宮 本 勝
杉 本 尚 次	

編集事務協力

石 元 宏 勉

〔後記〕 1 卷 2 号ができあがりました。4 月になってから、編集委員の顔ぶれも、だいぶん変わりました。加藤九祚 (編集委員長)、黒田悦子、中山和芳、和田正平の 4 委員がやめ、あらたに石森秀三、伊藤幹治、関本照夫、宮本勝の 4 人が委員会に加わりました。本号の編集作業は、途中まで旧編集委員会において担当されました。編集作業もなんとか軌道にのってきましたが、まだ、検討しなければならない問題が、いろいろ残っています。こうした問題をひとつずつ解決していきたいと思います。

(伊藤)

昭和 51 年 7 月 10 日 印 刷
昭和 51 年 7 月 20 日 発 行

非 売 品

国立民族学博物館研究報告 1 卷 2 号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川 23-17

TEL 06 (877) 5341 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.1 no.2
June 1976

- | | |
|------------------------------|--|
| MATSUBARA, Masatake | Daily Diet and Dietary System in a Turkish Village |
| FUJII, Tatsuhiko | Lithic Culture in the Huánuco Region, Central Andes |
| KATO, Kyuzo | The Gilyak Observed by Rinzo Mamiya |
| EGUCHI, Paul Kazuhisa | Mbum Circumcision Songs |
| KURODA, Etsuko | Notes on the Historical Background of Highland Mixe in Oaxaca, Mexico |
| ISHIGE, Naomichi | Salt Making at Kumupa, Central Highland, Irian Jaya |
| IZUMI, Yuka | Preliminary Notes on Visual Thinking
—from the perspective of exchange theory in structuralism— |



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
Phone 06-877-5341